

教育事業名	平成27年度教育事業			
	ふれあい通学合宿			
事業の趣旨	規則正しい生活をする事により、自分で生活と学習のリズムを作れるようになるとともに、新しい環境・人間関係の中でも、積極的にコミュニケーションをとることができる子どもの育成を目指す。			
対象者	室戸市内の小学校5・6年生			
実施期間	平成28年2月21日(日)～平成28年2月27日(土)6泊7日			
参加者/定員	32名/58名			
活動プログラム				
事業の内容	2/21 (日)	2/22～25 (月)～(木)	2/26 (金)	2/27 (土)
朝		6:00 起床・洗面 6:50 朝食 7:15 自然の家発	6:00 起床・洗面 6:50 朝食 7:15 自然の家発	起床・洗面 朝食・登校 退所点検 振り返り 閉講式 退所
昼	13:00 キラメッセ着 13:10 法満坂ウォーク 15:00 自然の家着 15:30 開講式 15:50 オリエンテーション 16:00 自己紹介	学校	学校	
夕	17:15 夕食 19:00 仲間づくり 20:00 入浴 21:00 班会 22:00 就寝	17:00 タベのつどい 17:15 夕食・洗濯 18:30 宿題 19:30 レクリエーション 20:30 入浴 21:30 班会 22:00 就寝	17:00 タベのつどい 17:15 夕食 18:30 キャンプファイア 20:30 入浴 21:30 班会 22:00 就寝	
2月21日(日)				
<p>自然の家に入所するまでの道のりを法満坂を歩いて登るように設定したが、今年度は天候不良のため実施することができず、その時間を利用して仲間作り活動を行った。グループで協力してゲームを行ったり、全体で体を動かしたりしながら互いの距離を縮めた。また、1週間のテーマソング「good day」の歌詞を知り、全員で口ずさみ、緊張感の中にも少しずつ笑みが見られるようになってきたところで一日目の活動を終えた。</p>				
② 2月22日(月)～25日(木)				
規則正しい生活習慣と学習習慣を身につけるために、1時間の自主学習の時間を設けた。学習時間中は静寂の中で集中して勉強に取り組める環境を作ると共に、法人ボラン				



【仲間づくり】

ティアが中心となって、理解が不十分な内容を見つけ指導を行った。
 また、学習終了後には、法人ボランティアが主体となってレクリエーションを行った。1週間の中で、少しずつ個から班、班から全体への関わりを必要とするレクリエーションの内容を工夫して行い、日を追うごとに子どもたちの活動が活発になっていくのが感じられた。

③ 2月26日(金)

最後の夜ということで、キャンプファイアを行い、大きな炎を囲んで最後の親睦を楽しんだ。翌日の振り返り活動に繋げるため、初日の出会いから日々の出来事を題材にしたスタンプを行った。時期的に夜間の冷え込みを心配したが、体を動かすスタンプを中心に行うことで、寒さを感じることはあまりなかったが、風が時折強く吹くこともあり、安全管理に苦勞した。



【キャンプファイア】

④ 2月27日(土)

最後の班会で一週間の振り返りを行った。法人ボランティアが作ったビデオを見ながら一週間の活動の時の自分たちの気持ちや友達の言葉等を思い出した。一人一人が自分の成長について考え、決意を短い言葉にまとめて、班の中で発表をした。一週間、生活をともにした友達や法人ボランティアとの別れを惜しみながらも、みんな笑顔で満足した表情で帰っていたのが印象的だった。



【振り返り】

事業の成果

- ・ 室戸市内の学校の大部分が少人数学級で、限られた友人関係の中で生活をしている児童が多いが、今回の事業を通して子どもたちの新たな交友を生み出すことができた。夜間のレクリエーションを仲間づくりの重要な活動として位置づけ、法人ボランティアが中心となって徐々に仲間との関係性を持たせる仕掛け作りを行ったことが効果的であった。
- ・ 毎日1時間の学習を行ったが、一日目は宿題を終えた後、手持ちぶさの様子であったが、二日目以降は事前にアナウンスすることで、子どもたちがそれぞれ1時間分の学習準備を事前に行い、集中して学習に取り組めるようになった。
- ・ 朝の起床から登校までの時間が短く心配していたが、就寝前に登校の準備を済ませ、朝も6時に全員が起床して素早く身支度を調えることができ、余裕を持って予定通りの時刻に自然の家を出発することができた。

事業の課題

- ・ 今年度は試行的に2泊3日で中芸地区の小学生も募集し、本事業と平行して通学合宿を行った。当初心配していた登校時刻の問題はクリアできたが6泊7日の本事業の子

	<p>どもたちと共通のプログラムでは、関係づくりができはじめたところでの別れとなり、中芸地区の参加児童には中途半端な活動となった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもたちが学校から帰ってきた後、夕食、学習、レクリエーション、入浴、班会と活動が詰まっいて、就寝までにゆっくと休める時間をとることができなかった。結果的に最終日までに3人が体調不良を訴えることとなった。規則正しい生活の中にもある程度ゆとりのあるプログラムにしていかなければならない。 ・ 最終日、部活動等の用事で早めに退所しなければならない参加者が多く、最後のまとめを全員ですることが難しい。金曜日に振り返りを行うなど、プログラム短縮を検討する必要がある
<p>参加者の感想</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ みんなと協力ができ、いい思い出ができた。 ○ レクリエーションの内容が毎日違って楽しかった。 ○ レクリエーションにいろいろな工夫があつて、いろいろな人と仲良くなれてうれしかった。 ○ 一人でいるときにやさしく声をかけてくれてうれしかった。 ○ 来年度も参加したいので、中学生向けにも実施してほしい。